TOPICS
-6-

トピックス…⑥

平成18年度
酪農全国基礎調査報告会を開催

中央酪農会議は、9月8日（土）、東京・文京区弥生の東京大学農学部で、平成18年度酪農全国基礎調査（現地調査）に参加した学識経験者による調査結果報告会を開催した。

●調査の実施概要

既に中酪ホームページにて、「調査結果のまとめ」は公表しているが、調査の実施概要は次のとおりである。

1．調査趣旨

最近の酪農の情勢の変化及び酪農経営の多様化が進む中、今までのような単一的な支援・対策では対応できない可能性があることから、生乳生産及び流通実態とその構造変化の特徴、経営の新たな動向と課題に関し、詳細に把握・分析することが不可欠であること、並びに今後の悉皆調査等の調査のあり方に対する有益な示唆を得ることを目的とした。

2．調査方法

学識経験者を中心としたヒアリング調査

3．調査対象地域

北海道（根釧・十勝）、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州の10地域

4．調査実施時期

平成18年10月～12月

5．調査実施内容

①酪農経営の直面する課題と今後の展開方法
②経営収益の維持・拡大のための方策
③土地利用の現状と今後の方向性
　・放牧及び飼料生産の現状と今後の方向性
　・環境対策の現状と今後の方向性
④生乳の安全・安心に関する意識と取組み状況
⑤生乳流通コストに関する意識と生乳販売一元化に対する考え方
⑥生乳計画生産の影響と対策
⑦各種補助事業及び融資制度への関心と対応
⑧情報入手経路

6．調査参加学識経験者（所属名等は調査当時のもの）

生源寺眞一（東京大学大学院農学生命研究科教授）
小林　信一（日本大学生物資源科学部教授）
栗原　伸一（千葉大学園芸学部助教授）
信岡　誠治（東京農業大学農学部助教授）
日向　貴久（北海道立根釧農業試験場研究員）
鵜川　洋樹（北海道農業研究センター業務推進室長）
福田　　晋（九州大学大学院農学研究院助教授）
霜浦　森平（千葉大学園芸学部助手）
末宗　範子（東京大学大学院農学生命科学研究科）

●調査結果報告会での協議

前項の学識経験者が参加し、以下の４つのテーマ別報告書ごとに、各地域の状況を踏まえたディスカッションを行った。

①多様化する酪農経営について
　●報告者：生源寺教授
②酪農経営における生乳流通対策と需給対応の影響の検討について
　●報告者：小林教授
③安全性を中心とした品質確保と都市農村交流活動への取組みについて
　●報告者：栗原助教授・霜浦助手
④酪農経営におけるふん尿処理等環境問題への対応状況と土地利用の現状と課題について
　●報告者：信岡助教授